

千葉支部 2022 年度第 1 回資格更新研修会資格更新研修会 報告

2022 年 7 月 3 日(日)9 時～12 時 Zoom 配信によるオンライン研修会 参加者 54 名

「聞き取り困難 (L i D) / 聴覚情報処理障害 (APD) について」

—聞こえているのに聞き取れない—

をテーマに国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 小渕 千絵先生をお招きし、ご講演をいただきました。

まず、聞き取り困難 (Listening Diffculties:LiD) とは何かについて、小児例・成人例についてお話がありました。聴力検査を実施し、聴力は正常であるにも関わらず、聞き取りにくさの症状が認められる、聴覚情報処理障害、あるいは聞き取り困難であるため、聞く能力の有無について判断が必要となるとのことです。そのために、LiD の症状と類似する障害については、聴力検査を行い、難聴との鑑別が必要となりますが、隠れ難聴については明確な鑑別が難しいとのことです。聞き取りに関しては、感覚障害と認知障害のどちらか、または両方で聞き取りは下がるため、「耳だけの問題」ではなく、聞き取る要因そのものとなるとのことです。それは、認知の問題として捉えられる要因、語音識別、言語処理も関与する要因であると考えられ、聞き取り困難の根底にある問題を考えると注意のスペクトラム障害もしくは、認知の観点から障害を捉え、問題の本質を見極めることも必要であることについて、改めて、当事者ご本人が日常生活の中における自覚、困り感の有無により、支援を必要とする人に対して初めて問題を考えなくてはならない現状もあることに気づかされました。

また、知的障害や ASD の方々にも判断する中で除外するのではなく、聞こえているのか識別し、対応していくことが大切であるということは、通常の臨床の中で行っていることを再認識することができました。

まずは、聴力検査を実施する、聞き取る力を育てる、環境設定を行い、周囲の理解を促すことの大切さを忘れずに心がけていけたら良いのではないのでしょうか。

小渕先生から、当事者会の活動も活発であることを伺うことができ、そこから多種多様な情報を入手していくことも確認できました。

今後も課題の一つとして捉えられる大変興味深い内容でした。

(齊藤順子)